

## 審査の結果の要旨

氏名 陳元君

生物多様性は人類生存の基盤に関わる。中国海南島は熱帯・亜熱帯地域において、生物多様性が高いことと共に速いスピードで消失することから注目されていることは周知のことである。中国においても世界に貴重な自然資源を保護するために政府が多数の自然保護区を設置したが、行政から適当な資金と人員が配置させておらず、自然保護活動が遅れていることが長く指摘されてきた。本論文はこうした自然保護区の一つである海南省鸚哥嶺自然保護区において、2011年～2013年にかけて合計4か月間現地調査を行い、先住民集落のひとつである道銀村の全11世帯の世帯主、自然保護区管理機関の全27人の職員、そして全体の約35%にあたる78人の先住民護林員を対象に、一人当たり16分～280分間にわたり対面式聞き取り調査を行い、海南島の自然保護の現場で起きている問題とその原因を明らかにし、より有効な自然保護管理手法について考察したものである。

海南島の自然保護区の75%は辺鄙かつ貧困な山岳地域に集中しているが、これらの地域には先住民の黎族が歴史的に居住し森林資源利用に基づいた生業と独自の文化を営んできた。現行法令は先住民を問わず厳正な自然保護を目標に定めたことから、次第に増加する山岳地域の自然保護区は先住民が利用できる自然資源を減少させる一方であり、政府の自然保護区管理機関と先住民との間に対立が起これ自然保護活動を難しくしている。こうした現状を打開するための方策の一つとして海南省政府は自然保護現場の担当者である護林員として先住民を多数雇用する政策を実施した。しかし、その効果や問題点を管理機関側と先住民側の双方の視点を比較しながら検討した報告はこれまで皆無に近く、本論文の成果が今後の自然保護区管理手法を考えるうえで大きな成果をあげたと評価できる。

まず、本論文の研究対象地のひとつである道銀村村民への調査からは、子供の教育を重視する村民にとって教育費用の負担が大きく、安定した現金収入の必要が生じているが、保護施業の推進により、換金のための動植物採集が制限され伝統的な収入源がたたれている現状が明らかとなった。厳正な自然保護政策のもとでは、昔ながらの焼畑や伝統的家屋作り、巻狩りなどの村民全員が協力して行ってきた伝統的な活動も禁止され、村民間の繋がりが薄められ、文化の消失につながっていた。一方、現行の住民連携プロジェクトの一つであるエコツアーは新たな収入源として村民にも受け入れられつつあることなど改善の動きも見られた。こうした調査結果は、現地に長期間滞在し、村民との信頼関

係を構築した上でないとなかなか収集できないものであり、これまでほとんど情報の無かった海南省の事前保護区内に居住する先住民の実態を明らかにする成果として高く評価できる。

一方、自然保護管理局職員は高い意識と情熱を持って業務に取り組んでいたが、27人のスタッフのうち9割が20代ないし30代と社会経験が浅い大学出身者で占められ、そのほとんどが漢民族であるなど、先住民族の居住する自然保護区の管理業務を行うにはさまざまな意味での職員の経験不足が影響していることがわかった。また行政による人事異動が頻繁に行われる他にも自ら管理機関の業務を離れるスタッフもおり、特にリーダー層の異動が激しいことも管理制度が未熟な鸚哥嶺自然保護区にとって管理業務遂行上の大きな損失となっていた。通常中国の公的機関の構成員から問題点に関する率直な情報を得ることは難しく、やはり職員との良好な信頼関係が無ければ情報を得ることは出来ない、道銀村民からの情報収集と同じくこれまでほとんど得ることの出来なかった事実を明らかにした点で高く評価できる成果である。

こうした問題を抱える鸚哥嶺自然保護区の自然保護管理業務において地元の先住民を大規模に護林員に雇用したことは、代々住み続けた自然を大切にしている先住民の姿勢が護林員として有効なこと、村の隅々まで護林員が目を配ることができ自然保護の啓蒙教育に貢献すること、村民と管理機関との争いにおいて護林員が村民との関係緩和を早い段階から積極的に行うこと、先住民護林員は地元の知識を活かして野外での自然調査を支えられること、など多くの利点があり、高く評価されていた。一方、護林員は自然科学調査へのサポートなど契約外の仕事に従事したり、交通不便な山岳奥への巡視など重い労働を求められたりするが適切な就労管理制度が整備されておらず、仕事上の貢献に十分応えていない低報酬への不満、勤務へのプレッシャーや過酷さなどの不満を生む原因になっていた。また、護林員管理者の管理能力不足、職員と護林員の間意思疎通不足などが護林員の労働意欲を大きく損ねているなど、現有制度の改善が必要な点が明らかとなった。中国の自然保護区管理の現場について、ここまで具体的かつ詳細な調査に基づいた研究成果はほとんど無く貴重な資料とであると評価できる。

本研究は、これまで実施することが困難だった多くの関係者への丁寧な聞き取り調査の結果をもとに、自然保護現場の現状と歴史・背景に隠される問題点を明らかにし、実現可能な対応策を検討・提示したものである。本研究の成果は、学術上の価値が高いのみならず、中国における自然保護区管理現場の改善、自然保護管理業務の向上、そして森林文化の保護継承など多くの点で実用的な応用価値が高いと判断される。よって、審査委員一同は本論文が博士（農学）の学位論文として価値あるものと認めた。